

博士課程

Doctoral Program



博士課程の概要

Program Outline

本学博士課程文化交流専攻には、言語コース、文化コース、国際社会コースの3つのコースがあります。

本課程は、言語、文化、歴史、政治、経済、社会、国際関係等の領域を従来のように閉じられたものとしてではなく、「交流」、「接触」、「摩擦」、「共生」といった相互の関係性の中でとらえていくことが必要不可欠だと考えます。そのため、研究領域の枠組みをできるだけ緩やかに柔軟なものにすることによって、それぞれの分野が相互に刺激し合い、研究・教育のより一層の活性化をはかるとともに、創造的で大胆な発想を備えた知性を生み出したいという配慮のもとに、一専攻のなかに3コースを設置しました。

The Doctoral Program provides students with a choice of three courses: the Linguistics Course, the Cultural Studies Course and the Social Studies Course. Students study the interchange, contact, friction and coexistence of cultures, all common to their fields of study, while they are also engaged in research in their respective areas of specialization. This curriculum gives students the opportunity to be original and creative, and it aims to foster those who can reshape conventional and closed fields of study into highly interdisciplinary new ones.

修業年限 Course Term

3年 Three Years

入学定員 Enrollment Quota

専攻 Major	コース Course	定員 persons
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction	言語コース Linguistics	12
	文化コース Cultural Studies	
	国際社会コース Social Studies	

学位 Degree

専攻名・コース名 Major & Courses	学位 Degree	学位に付記する専攻分野の名称 Major Appended to the Degree
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction ・言語コース Linguistics ・文化コース Cultural Studies ・国際社会コース Social Studies	博士 Ph.D.	文学 Literature 国際関係学 International Relations 学術 Philosophy

*学位記は日本語で発行します。希望する者には英訳の証明書を学位記とともに発行します。

The Doctor's Degree Certificate is issued in Japanese. Its authenticated English translation is available upon request.



課程修了要件 Program Completion Requirements

外国語学研究科において博士の課程を修了し、博士の学位を得るためには、本学博士課程に3年以上在学し、大学院履修規程に定める授業科目のうち、専攻するコースの授業科目4単位以上を含む合計6単位以上を取得するとともに、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することを要します。

A candidate for the Doctor's degree will study at the university for at least three years, acquire 6 credits or more from the predetermined class subjects, submit a Doctoral Dissertation and pass its screening in addition to the final examination.

学位授与方針 Diploma Policy

所定の単位の取得と博士論文の提出を前提とします。博士論文においては、研究テーマの妥当性、先行研究との関連性、当該分野への学術的な貢献度、論理展開の透徹性、方法論の客観性・一貫性などを中心に総合的に評価します。独創的な視点で研究を遂行する自立した研究者として、将来にわたって活躍が期待される博士論文提出者に対し学位を授与します。

博士論文審査会



神戸市外国語大学学術情報リポジトリ Repository of Kobe City University of Foreign Studies

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

本学の教員・院生の作成した教育・研究成果物を保存し、学内外に無償で公開しています。

This is the University's institutional repository which aims to provide open-access to KCUFS research results from a variety of sources, including journals, working papers, scholarly materials, and doctoral dissertations.



博士課程研究支援

Research Support

学術国際会議研究発表助成 Grant for travel expenses

博士課程に在学し、海外で開催される学術国際会議や学会において研究成果の発表を行う方を対象に、大学から補助金を支給します。

【助成内容】 学会等の登録料及び国際航空運賃(往復)の実費 上限300,000円/人

KCUFS provides doctoral students with travel expenses and registration fees up to 300,000 yen who make presentation at an international conference held outside Japan.

おすすめします

学術国際会議研究発表助成

澁谷 恵美
(言語コース3年)

2018年度及び2019年度、学術国際会議研究発表助成制度を利用させていただきました。国外における国際学会での研究発表は費用負担が大きくなりますが、本制度は学会の登録料や国際航空運賃につき1度に15万円までの助成があります。私はそれぞれ、マルタとポーランドで自身の研究成果を発表する機会に活用させていただきました。海外の研究者の知見を得る機会に参加でき、さらに自身の研究の幅を広げるきっかけとなったことから本制度の利用は、研究のためのサポートとして非常に有益であると感じています。

ティーチング・アシスタント Teaching Assistant

博士課程の学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供するため、ティーチング・アシスタント(T.A.)の制度を設けています。

KCUFS offers teaching opportunities for future teachers and researchers.

おすすめします

ティーチング・アシスタント

小谷 七生
(文化コース2年)

私はティーチング・アシスタント (T.A.) 制度を利用しました。教授の指示に従って資料を準備することが主な仕事です。授業準備の過程は、普通の学生生活では見ることができないので、貴重な体験でした。また、講義中には学生の発言をアシストしたりもしました。教える側と教えられる側両方の気持ちを考えながら講義に参加する経験は、本制度があるからこそ持てたものであり、多くのことを学べました。

研究成果の公表支援 Grant for publishing

研究科論集 Kenkyuka Ronsyu (Journal)

「博士課程院生協議会」が主体となり、毎年論集を1冊発行しています。印刷費として上限20万円を大学から補助しています。

KCUFS provides up to 200,000 yen to doctoral students who publish a journal which is edited independently by doctoral students once a year.

外大論叢 Gaidai Ronso (Journal)

教員の研究成果の発表の場として刊行している外大論叢に、論文掲載の応募することができます。

KCUFS offers publication opportunities of research results for professors and doctoral students can apply their journal to be posted on it.

在学延長制度 System for Extension of Enrollment Period

本学大学院博士課程に在籍する者で、学位論文(博士論文)の執筆のために標準修業年限(3年)を超えて引き続き研究活動を行う者に、在学を認める制度です。

This system allows for an extension of the enrollment period for those students who would like to continue working on their doctoral theses.

If the extension is granted, the tuition fee(s) will be waived.



文化交流専攻

Cross - Cultural Interaction



言語コース Linguistics Course

本コースは、日本語とその近隣言語を対象とした包括的な言語研究を行うことを目的としており、各言語の交流と接触の諸相を見通しながら個々の言語を研究するとともに、時間と空間、地理的特性などの観点から多様な言語を比較研究します。

This course aims at providing comprehensive language studies by focusing on Japanese and its neighboring languages, observing prospects of language exchange and contact in the future, studying each individual language, and comparing various languages in terms of time, space and geographical features.

文化コース Cultural Studies Course

文化コースは、世界を、日本を含むアジア地域、中近東とアジアの一部を含むイスラム圏、ヨーロッパと南北アメリカの4つの地域に分け、それら相互の交流、接触と個々の文化研究を着実かつ創造的に研究します。

The course aims at promoting surefooted and creative studies under the four divisions of a cultural framework: Asia including Japan, Russia, Europe and the Americas combined, and an Islamic sphere, instead of the traditional divisions based on political structure.

国際社会コース Social Studies Course

このコースでは、激動と変革の時代の中で大きく揺れ動いている国際社会を、その基礎となる地域社会の研究を出発点にしながら相互関係を含めて総合的に研究を進めます。法律政治、経済経営、地域研究の3つの分野における多様なプログラムを提供します。

In this course, we provide a variety of programs in three fields based on our university's long tradition as a foreign language educational institution: Law and Politics, Economics and Management, and Area Studies.

博士論文の執筆 Writing of Doctoral Dissertation

博士課程に入学した者は、1年次・2年次の各年次において、入学当初に提出した「執筆計画書」に沿い、「報告論文」を作成し指導教授に提出します。2年次の報告論文の審査に合格した者には、論文執筆許可が与えられ、論文執筆許可を得た者は、学内3名以上からなる審査委員会によって行われる「予備審査」に申請することができます。

予備審査に合格すると「本審査」の申請をすることができ、本審査では予備審査委員に学外専門家1名以上を加えた博士論文審査委員会において審査を行います。

Doctoral students must submit an "annual study report" to their supervising professor in both their first and second years according to the "writing plan" submitted upon enrollment. Those who pass the screening of the second year report are allowed to write a Doctoral Dissertation and apply for preliminary screening. Students who pass the screening are then allowed to apply for the final screening. The final screening committee is composed of scholars, including at least one from outside this university.

担当教員 Academic Staff

言語コース Linguistics Course

日本語演習
Japanese Linguistics

福田嘉一郎 Yoshiichiro FUKUDA
●教授/Professor

岩男 考哲 Takanori IWAO
●准教授/ Associate Professor

アジア言語演習
Asian Linguistics

下地早智子 Sachiko SHIMOJI
●教授/Professor

竹越 孝 Takashi TAKEKOSHI
●教授/Professor

任 鷹 Ying REN
●教授/Professor

林 範彦 Norihiko HAYASHI
●教授/Professor

金子百合子 Yuriko KANEKO
●教授/Profressor

Elena BAIBIKOVA エレナ・バイビコワ
●准教授/Associate Profressor

欧米言語演習
European & American
Linguistics

本多 啓 Akira HONDA
●教授/Professor

Montserrat SANZ モンセラット・サンス
●教授/Professor

山口 治彦 Haruhiko YAMAGUCHI
●教授/Professor

川口 正通 Masamichi KAWAGUCHI
●准教授/Associate Profressor

文化コース Cultural Studies Course

日本文化演習
Japanese Culture

山本 昭宏 Akihiro YAMAMOTO
●准教授/ Associate Professor

アジア文化演習
Asian Cultures

北見 諭 Satoshi KITAMI
●教授/Professor

清水 俊行 Toshiyuki SHIMIZU
●教授/Professor

紺野 達也 Tatsuya KONNO
●准教授/Associate Profressor

欧米文化演習
European & American
Cultures

David Lee FARRAH デイヴィッド・リー・ファラ
●教授/Professor

成田 瑞穂 Mizuho NARITA
●教授/Professor

西川 健誠 Kensei NSHIKAWA
●教授/Professor

野村 竜仁 Ryujin NOMURA
●教授/Professor

山之内克子 Yoshiko YAMANOUCHI
●教授/Professor

国際社会コース Social Studies Course

国際法政比較研究
Comparative Studies of
International Laws and
Politics

五月女律子 Ritsuko SAOTOME
●准教授/ Associate Professor

国際経済・
経営比較研究
Comparative Studies of
International Economy and
Management

中村 嘉孝 Yoshitaka NAKAMURA
●教授/Professor

田中 悟 Satoru TANAKA
●教授/Professor

江坂 太郎 Taro ESAKA
●准教授/ Associate Professor

地域研究
Area Studies

千葉 典 Tsukasa CHIBA
●教授/Professor

大石 高志 Takashi OISHI
●教授/Professor

最近の博士論文のテーマ Recent Doctoral Dissertation

- ・ 中近世スペインにおける聖ヤコブ崇敬の連続性 -民衆の「祈り」-
- ・ 日本の使徒聖ニコライの聖典翻訳研究 -正教会の用語翻訳の特殊性をめぐって-
- ・ 汉语方位詞の語義演化路径及其認知機制研究--主要以“上”、“下”为例--
(中国語における方位詞の意味変化プロセスと認知メカニズムの研究 -主として「上」、「下」を例に-)
- ・ 現代日本語のヴォイスに関する研究 -中国語との対照を交えて-
- ・ 日本語と中国語における名詞句の意味機能に関する対照研究
- ・ 中原官話汾河片音韻史研究(中原官話汾河支派方言グループ音韻史研究)
- ・ Perception and Linguistic Form:A Cognitive Linguistic Analysis of the Copulative Perception Verb Construction
(知覚と言語形式:連結的知覚動詞構文に関する認知言語学的研究)
- ・ 漢語福清方言の記述言語学的研究
- ・ Estudio comparativo de las mimesis del japonés y el español.Propuesta de marco teórico ante los problemas de traducción
(日西オノマトベ比較研究 翻訳のための理論的枠組みの提案)



院生紹介 Message from a Student

-なぜ博士課程に進学しようと思いましたか？

修士課程に進学したときから 2 年間でとても時間が足りないと考え、博士課程への進学を視野に入れていました。研究活動を進める中で感じた関心の変化や、自分なりの気づきを更に発展させるための場として、またこの先も長く研究活動が続けるための手段として博士課程への進学を決意しました。

-神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。

私は神戸市外国語大学の外国語学部に在籍していた頃から、「言語接触」という現象に大きな関心があり、これまで一貫して自身の研究活動の根幹をなすテーマとしてきました。本学博士課程文化交流専攻言語コースは「言語交流と言語接触」を主なテーマとして掲げており、私の関心とピッタリと一致すると思ったため、本学博士課程を選びました。この一致は全くの偶然ですが、結果的に学部、修士課程、博士課程と慣れ親しんだ環境で学ぶことができている。

-どのような学生生活を送っていますか？

昨年は週 3 コマの授業を履修し、他の時間はほとんど自分の研究に使いました。文献を読み、学会発表を行い、それを論文にまとめる、といったサイクル

で研究を進めています。博士課程においては自分の研究を進めることが優先ですが、出席した授業内で多くの発見や、ヒントを得ることができました。また気分転換には映画を観ることが多いですが、これも勉強の一環であると考えています。

-博士課程への進学を考えている人にメッセージをお願いします。

昨今の人文学を取り巻く環境は厳しく、博士課程修了者の進路などが度々問題として報じられています。私もこれまで進学について大きく悩み、また現在も常に将来についての不安を感じています。しかし、それでも研究したいと思うテーマに出会えたことは非常に貴重な財産であると思いますし、博士課程の期間に限らず、生涯に渡って付き合い、考え続けられるライフワークを得られたと感じています。博士課程進学は一見遠回りのように見えますが、ある問題を深く追求するために費やした時間、身に着けた方法、学んだ知識などは、きっと人生のどこかで自分を助けてくれると私は信じています。惜しみなく努力できる明確な研究テーマを持ち、長く学習を続けたい方にとって、博士課程進学は魅力的な選択肢の一つであると思います。



萩原 亮(2年)
Akira HAGIWARA